

ブラジル金融政策（2019年7月）

0.5%ポイントの利下げ

2019年8月1日

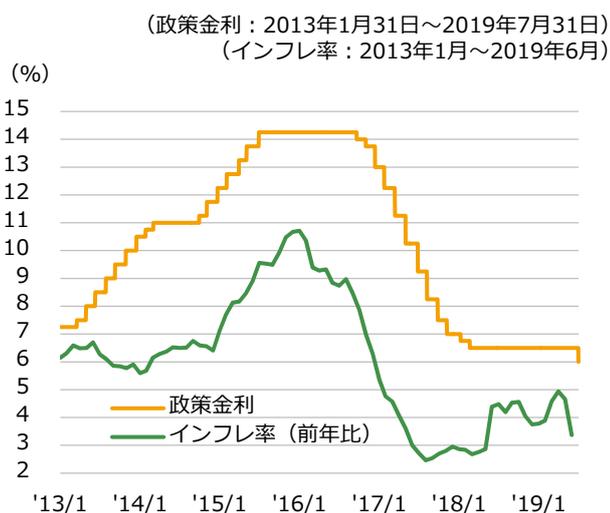
景気刺激のため、市場予想を上回る利下げを実施

ブラジル中央銀行は7月31日（現地）、政策金利を6.50%から6.00%に引き下げました。市場予想の0.25%ポイントを上回る利下げ幅となっています。足元のインフレ率は目標範囲（2019年は4.25%±1.5%）内で推移しており、経済指標も軟調な結果が続いています。また、年金改革法案に進展が見られ、インフレの懸念材料も後退したことから、景気刺激を狙い政策金利を引き下げたとみられます。今後の金融政策については、経済活動やインフレなどの状況次第としているものの、インフレが落ち着いて推移すれば、さらなる利下げを行う可能性もあると言及しています。

注目の年金改革法案に関しては、第一回下院議会投票が行われ、事前予想を上回る賛成票を集め承認されました。法案の成立には上院議会でも承認が必要ですが、上院議会においても賛成が多数を占めていると報じられており、年金改革法案成立まで秒読みに入ったとみています。また、下院議会での法案承認を受けて、ボルソナロ政権は退職基金から個人が前倒して資金を引き出すことを認める景気刺激策を打ち出しました。これにより、個人消費を下支えし、ブラジル経済への追い風となることが期待されます。

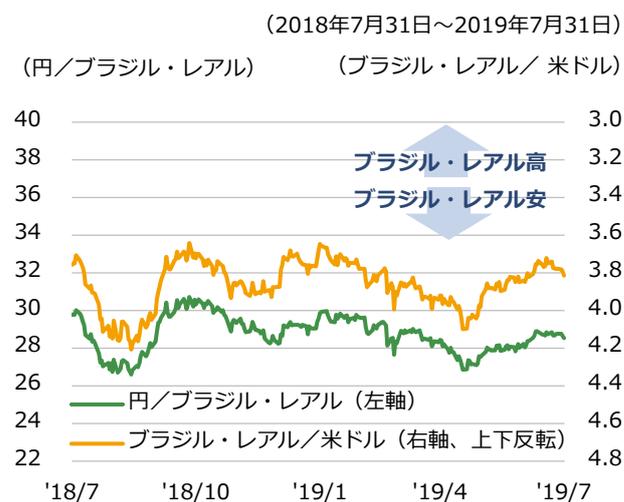
ブラジル・レアルについては、追加利下げへの思惑が通貨を下押しする可能性はあるものの、年金改革法案の進展期待が通貨の上昇材料になるとみています。また、米国でも同日に0.25%ポイントの利下げが実施されていますが、世界的に各国の中央銀行が緩和的な政策をとる中で、相対的に金利の高い新興国市場への資金流入が期待され、ブラジル・レアルの上昇を後押しすると考えています。

政策金利とインフレ率の推移



(出所) ブルームバーグ

為替の推移



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。